

F-12 老後生活に対する意識調査

和洋女大文家政 酒井ノブ子

目的 近來、老後生活に対する関心は生活上最大の関心事の一つとなっている。また老後生活の問題点の背景には老人をとりまく諸環境の悪化が考えられる。そこで、本調査は老後生活の問題点を究明する手がかりとして一般の人びとの意識調査を行なったものである。

方法 対象は首都の東部に近接する市川市，千葉市，北部に近接する久喜市，杉戸町，春日部市，越谷市，西北部に近接する所沢市，毛呂山町の人で，学習を目的とした集会に参加した293名の入連である。調査方法は面接による質問紙法で，本人の記入によった。回収率100%，有効率78%で，調査時期は49年2月～50年6月である。内容は老後生活の不安の有無，老後の経済自立の必要性，親や子との同居問題，老後生活の責任の所在，老後生活の見通し，老人の扶養問題などで，性差，地域差，年齢差，職業による差などをみることにした。

結果 性差については全調査内容にわたって有意差は認められなかった。ゆえに，本調査では性差を無視して考察することにした。その結果，地域差は「老後生活の見通し」の他は有意差が認められ，年齢差については「老後生活の不安の有無」と「老後生活の見通し」の他は有意差が認められた。また職業別では全調査内容について有意差が認められ，月給生活者家庭と農家，商家，その他の職業をもつ家庭などにある人達との間に，はっきりした意識の相違をみることができた。